

<基本情報技術者試験 講評>

【午前】

今回の試験は新制度での2回目の試験となりましたが、3分野からの出題割合はテクノロジー系 50 問、マネジメント系 10 問、ストラテジ系 20 問と、春試験と同様の割合でした。各分野での大分類からの出題数も春試験とほぼ同数でしたので、今後もこの傾向が続くものと思われま

す。過去問題の改題や類似問題の出題は減少の傾向にありますが、頻出テーマからの出題には変化がなく、基本的な知識や理解度が問われる問題が出題されています。

しかしながら新制度へ移行していることもあって、3分野ともに新傾向問題が出題されています。テクノロジー系では Ajax の説明を問うもの、マネジメント系では過電圧の被害を防止する手段を問うもの、ストラテジ系ではエンタープライズアーキテクチャの構成を問うものなどが、新傾向問題での出題と言えます。全体の1割前後が新傾向問題となっており、この傾向は今後も続くものと思われま

す。普段から I T 関連の新しい技術に関する情報には、注意しておくとい

《出題分析》

各分野での大分類ごとの出題数は下記の通りです。基本情報、初級シスアドでよく出題されている問題を、定番問題としてカウントしました。

テクノロジー系 全 50 問

基礎理論	8 問	(定番問題 4 問)
コンピュータシステム	18 問	(定番問題 13 問)
技術要素	18 問	(定番問題 9 問)
開発技術	6 問	(定番問題 2 問)

マネジメント系 全 10 問

プロジェクトマネジメント	4 問	(定番問題 2 問)
サービスマネジメント	6 問	(定番問題 1 問)

ストラテジ系 全 20 問

システム戦略	8 問	(定番問題 4 問)
経営戦略	6 問	(定番問題 2 問)
企業と法務	6 問	(定番問題 2 問)

【午後】

春の試験同様、アルゴリズムのみが必須で、プログラミング言語の問題が 5 問中 1 問選択、それ以外の問題が 7 問中 5 問選択という形式でした。問題の選択によって多少、難易度に差があったと言えるでしょう。

必須のアルゴリズム問題は、今回は定番のテーマが取り上げられ、問題文も段階的な記述であるため、問題文をよく読むことで解答に辿り着くことができたと思います。単なるアルゴリズムの概念ではなく、計算誤差の知識を問う問題もあり、基礎知識の充実も必要と思われます。難易度はほぼ例年通りといえるでしょう。

※問題内に誤植があり、c と d は全員正解となります。(IPA 10/22 発表)

前半の選択問題では、問 1 のハードウェア (半加算器と全加算器)、問 4 の情報セキュリティ (利用者認証) は、既に知識としてよく知っている方については解き易かったのではないのでしょうか。その反面、問 3 のネットワーク (データ送信とその符号化) や問 7 のシステム戦略 (情報システムの効果見積り) は、計算問題を少し考えなければいけないため、難易度は中程度と言えるでしょう。

後半のプログラミング言語の問題では、それぞれの言語でよくある題材が取り上げられていたため、言語間の難易度の差はなかったといえます。問 9 の C 言語 (多倍長整数の加算)、問 11 の J a v a (携帯電話の料金計算) なども特に難易度が高いというわけではなく、地道な努力が成果に結びついたのでないのでしょうか。問 13 の表計算 (勤怠管理と出勤割当て) は、予想の範囲内ではあるものの、問題文が長いため、読みこなすスピード必要でした。

全体的に難易度は例年通りですが、幅広い知識が問われるため、まだ実施回数のないマネジメント系やストラテジ系の範囲も含めて、しっかりと基礎知識の習得することが必要です。

以 上